

牧師室から(2023.1.1)

新しい年が明けた。皆さまと共に礼拝を守りながら一年が始まるのは何よりも嬉しいことである。

昨年を振り返ると、悲しいこと、嬉しかったことがあり、それだけではない、神さまの前で穴があつたらもぐりたくなくなるくらい恥ずかしくなるようなことも頭に浮かんでくる。後ろを振り向いて反省することは、前進するために必要なことであるが、過去に執着することは、ロトの妻のように命がない生活になってしまう。いつまでも過去にしばられているならば、それは前進を阻むものであり、また過去の現在化は、今を真摯に生きるということを妨げる。過去を思い起こしている間は、時間が流れていないともいえるだろう。

今こそ、使徒パウロの言葉を覚えよう。

「…なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、…」

(フィリピ3章13節 b)

パウロ自身にも新しい歩みをする上で、前進を妨げるような過去の経験があったことであろう。人には忘れてよいこと、忘れてはならないこと、忘れるべきことがあると思う。しかし、何よりも忘れてはならないことは、主の御言葉である。

新年は、主の約束のみ言葉を信じて、先に進んでおられる主の後を真っ直ぐに従っていく日々でありたい。

(鈴木淳一牧師)